

令和6年度
大松小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標
見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを実現する子どもの育成

学力向上検討委員会構成
学力向上推進員 竹原祥子
委員 校長 下山敬子 教頭 井関美香 教務 阿部孝彦 特別支援 中村明美
1年主任 朝日奈美樹 2年主任 堀内真紀子 3年主任 小島有紀
4年主任 平岡里奈 5年主任 栗田のり子 6年主任 竹原祥子

校長 下山 敬子

【小中連携または中高連携における共通の取組】

学習のめあての提示・学習のふりかえりを徹底して行う。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○明るく素直である。課題に対して真面目に取り組もうとする。 ●漢字・九九・計算などの定着に個人差がある。 ●音読や読書が苦手な児童が多い。 ●一斉指導の中で話を聞くことに課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。(児童全体の8割以上) ・習得した知識を他の学習や生活の場面で生かすことができる。	・朝の時間や授業の初めに小テストを実施することで、学習内容の定着を図る。 ・読書、日記指導、1分間スピーチ等を通して、語彙の充実を図る。 ・ICTやタブレットを効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分なりに意見を伝えたり、問われたことに対して発表する児童が多い。 ●自分の考えを根拠に基づいて発表したり、相手の考えを受けて深めたりすることには至っていない。 ●要点を押さえて話す・聞く・書くことが難しい。	・得た知識を相互に関連づけ、筋道をたてて考えることができる。 ・根拠や理由を明らかにしながら自分の意見や考えをわかりやすく表現することができる。	・見方・考え方を働かせ、自分の考えや図や表・絵などで説明するなど、わかりやすく伝える活動を積極的に行う。 ・ペア・グループで話し合う場を設定し、学びを深められるようにする。 ・こども新聞などを活用し、内容を要約したり、感想を伝え合ったりする活動を積極的に行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○興味・関心のあるものに対しては主体的である。 ○楽しんで学習に取り組んだり、教え合いながら学習を進めたりすることができる。 ●自ら課題を見つけて取り組むことに課題がある。 ●「やりたい」という思いが薄く、自信をもって学習に取り組めない。	・学習規律を身に付けて、集中して取り組むことができる。 ・学習の見通しをもち、自分のめあてをもって、主体的に取り組むことができる。 ・解決課題に向け、粘り強く取り組み、学習したことを次の学習につなげることができる。	・学ぶ楽しさやわかる喜びを感じ、主体的に取り組むことができるよう授業改善を行う。 ・授業の中で達成感を味わわせ、次時の学習のめあてをもつことができる。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

